# 桜華大学チアリーディング部の試練！自らのエールで男子を勃起させろ！

桜華大学男子応援部と、女子チア部の合同合宿練習からしばらく経った後の、ある平日の夕方。

野球部の全国大会に向けて、応援部とチアリーディング部の合同強化がさらに進んでいた。

女子チアリーディング部は、顧問から「魂からの応援」をテーマにした特別特訓を命じられた。

それは、ただ声を出すだけでなく、選手の心を直接奮い立たせるような、強い気合と視線と想いを込めたエールを送ることだった。

「選手がグラウンドで苦しんでいるとき、君たちのエールで彼らの闘志を燃やさなければならない。

言葉だけでなく、身体全体で、魂で呼びかけるんだ」と顧問は言い、今回の特訓内容を発表した。

特訓の相手は、応援部の男子部員たち。

男子たちは「チアの特訓に協力するのも練習の一部だ」と聞かされ、体育館に呼び出された。

特訓のルールは過酷だった。

男子応援部員は全員全裸で立ち、女子チア部員1人に対して男子1人がつき、真正面に立たされる。

女子たちは通常のチアユニフォームのまま、男子のおちんちんに向かって、魂を込めたエールを送り続ける。

触ったり、手を伸ばしたりするのは一切禁止。

声と視線と気合だけで、男子のおちんちんを勃起させるまでエールを送り続けるという、極限の精神特訓だった。

「選手を奮い立たせるように、男子の身体を奮い立たせるんだ。恥ずかしさもすべて乗り越えて、本気のエールを」と顧問は厳しく言い渡した。

特訓が始まった。

応援部の男子部員の選ばれた18名は、すべて学ランと下着を脱ぎ捨て、全裸で赤い鉢巻きだけを締め、両手を後ろに組んで立たされた。

18本のおちんちんが無防備に晒されている。

対する女子チアリーディング部の18名は、鮮やかな桜色と白のチアユニフォーム姿で、1人ひとりが担当の男子の真正面に立った。